

平成 30 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 伊豆社会福祉事業会

玉澗園拠点区分



はじめに

社会福祉における人材不足が深刻度を増す中、厚生労働省は、働き方改革の一環として「介護サービス事業（施設サービス）における生産性向上に資するガイドライン」を表し、業務の改善を前提に「業務の明確化と役割分担」「手順書の作成」「介護ロボットやインカムの活用」を推奨しています。巷では働き方改革として残業時間の制限や有給休暇の強制的取得促進がクローズアップされ所得の伸び悩みを背景に副業セミナーが隆盛を極めているとのことです。耳障りの良い言葉の裏に成果主義や人事評価の厳格化が潜むのではないかと懸念されます。

又、フランスの社会学者デュルケームが「社会の規制や規則が緩んでも個人は必ずしも自由にならず、かえって不安定な状況に陥る。規制や規則が緩むことは必ずしも社会にとって良いことではない。」として各個人の組織や家庭への連帯感の喪失を懸念する言葉が思い出されます。

人と人とのつながりを最も重視しなければならない業界にあってこうした混沌の時代とどのように向き合っていくかが問われます。

以下に30年度の事業につき説明いたします。

◇固定資産取得物品（決算書固定資産管理台帳参照）

センサー内蔵型電動ベット（見守りケアシステムM2） 9台

◇固定資産除却

車両運搬具 ワゴンR沼津50た2982 H12.5.31 整備分

器具及び備品 パラマウントベット H12.5.31 整備分

1、全体（事務）として

職員補充による新人職員の増加により諸々の面で業務に滞りが散見され、その修正や改善に追われ、育成が追い付いていない状況が見られる一年でした。内部統制の劣化は人材不足や新人職員の増加によるコンプライアンスの不徹底、自己中心的な考えや誤った考え方などによる各部署の不透明性の助長が懸念された為、「法人として求められる職員像」を明確にし各職員が進む方向や価値観の共有、連携意識の定着化を図りました。また事業所の自己評価により自らの業務内容を比較衡量することで自己を振り返る客観性の醸成を図り、ステークホルダーである利用者やご家族の視点を意識することで自らの提供するサービスの質の向上の対応を施しています。これ等のことは端緒に就いたばかりで未だ結果を提示できる段階ではありませんが方向性を定めスタートを切った年度と言えます。

◇各種マニュアルの見直し

事故対策マニュアル（ヒヤリハット・事故報告書提出の流れの変更等）

身体拘束廃止の指針の策定

褥瘡対策のための指針の策定

◇衛生委員会（静岡産業保健センターより講師招聘）

「メンタルヘルスの理解と元気な職場と自分であり続けるために」

平成 30 年度静岡県実地指導指摘事項及び助言事項

指摘事項

- (1) 苦情等の記録が適切に記録されていない。
- (2) 個別機能訓練加算について介護報酬返還
計画のない時期、入園者に対しての内容説明等が確認できないものがある。
個別機能訓練の実施記録がなく実施状況が確認できないものがある。

助言事項

従業者に対し、その資質の向上のための事項が不十分。

- ・ 苦情の情報や各委員会での決定事項が全職員に周知されているか確認できない。
- ・ 虐待・事故等に係る研修は行われている者の参加率が低く不参加者への対応が来ていない。
- ・ 職員へ身体拘束チェックリストを実施しているが集計・分析を行っていない以上評価されていない。
- ・ 新規採用職員への研修プログラムが立てられていない。
- ・ 施設サービス計画について褥瘡リスクが高まっているにもかかわらず暫定の施設サービス計画から 2 年間内容に変化がなく適切なモニタリングがされず更新されている。

デイサービスセンターたまざわ

生活相談員が配置されていない日があった。

◇上記指摘についての対応策

苦情関係

- ・ 苦情窓口の明確化とご家族とのコミュニケーションの強化
苦情窓口は掲示されていますが契約時、契約説明担当者が重要事項説明時に自らを説明当事者として明示することとしました。
- ・ ご家族に対し定期的に意見要望等の調査を実施中です。別添資料参照
- ・ ご家族からの申し出に対しては苦情要素を感じた場合は苦情受付記録を作成することとし、内部研修を行うこととしました。

機能訓練体制加算

対象となる期間並びに利用者について国保連介護報酬、利用料の返還手続き中です。
国保連報酬返還額 3 市区町 277,677 円 利用料 30,864 円
今後の対策としては機能訓練士への一任を改め、複数チェックを実施し再発防止に努めます。

◇助言指導について

会議や研修についての不参加者については会議録等の回覧や PC による閲覧でいつでも見られる体制をとっていましたが実地指導の意図するところはより現実的な内容の周知、理解を求めるものとして研修機会の増加等新たなシステムの構築を図ります。

身体拘束関連については、委員会活動として位置付けていたため、その進捗が県の要請に合わなかったものと考えます。委員活動の質の向上を図るとともに別の対応を検

討します。

施設サービス計画については継続して改善を図ってまいります。

デイサービスセンターについては相談員の配置を実施しました。

2、処遇 介護職の退職と補充途中における職員数の減少によって介護のルールは自分勝手の解釈が横行し、職員の当事者意識の希薄化、連携の停滞、職員の自己中心的な要求が助長し最低限のレベル維持に追われた年度でした。一方で誠実に業務に携わる職員も近視眼的判断が見受けられ、これらもすべて事務所の情報共有のあり方、情報収集の不備に原因するものと反省しています。

職員相互のコミュニケーション、会議等での発言の機会を増やし連携の強化に取り組んでいます。

ルールや手順について、注意喚起や抜き打ちのチェック等で定着化を図っています。

看取り介護については玉澗園で5名、玉澗園2で2名の対応となりました。その中で以前から申し合わせていた遺留品等の整理引渡しについて「最後まで人と人とのかわりを行ってくれたことに感謝します」との言葉を頂きました。

3、医務

インフルエンザやノロウィルスは徹底した防疫策で一人の罹患者も出さずに済みました。これは感染症に関する内部研修と外来者へのうがい手洗いの徹底、職員並びにそのご家族の情報収集と注意喚起によるものと評価しています。

看護師を中心とした感染症対策委員会は年間4回開催され、毎月各ユニット等のトイレ、洗面所、床等の清掃状況及びエントール内の温度、湿度のチェックを衛生ラウンドとして環境の整備に貢献してくれました。まだまだ目標とする結果は出せていませんが期待の持てる活動となっております。

4 玉澗の里

デイサービスも居宅介護支援事業所も目標とした利用率は確保できませんでした。

居宅介護支援事業所にあっては、改善策を立てられないまま1年が経過してしまいました。残念なことはケース数が目標値に達しなかったことではなく利用者の変動に合わせ、結果目標値に達しなかったことで待ちの利用者獲得のスタンスから攻めのスタンスへの転換が見えないことでした。通所介護においてもその動向は顕著で、カリキュラムの検討は職員内部だけで行われ形作られないまま一年を経過してしまっただけです。スタッフの変更をも踏まえ改善を図ります。

5、内部研修

平成 30 年度事業計画説明	4 月
1 1 8 講習（心肺蘇生法の講義・実習） 人工呼吸器ユニットを使用	5 月
平成 29 年度事業報告説明	6 月
インフルエンザ 対応研修	11 月 6 回
ノロウィルス対応研修（吐瀉物処理実習）	12 月 6 回

看取り介護振返り研修
各外部研修における報告研修

5月・7月
9月・10月・3月

6、外部研修

介護職初任者研修	1名
介護実務者研修	1名
喀痰吸引講習	1名
新しい転倒事故防止対策	1名
感染症食中毒予防対策講座	2名
個室ユニット型施設研修	2名
介護支援専門員実習受入事業所説明会	1名
煙火従事者講習	4名
いまどきの若手職員を伸ばす方法	1名
総合防災訓練視察（福祉避難所）	4名

その他

玉沢地区防災訓練	4月・11月
運営推進委員会	偶数月6回
玉澤健幸サロン 弥生	24回 延149人

7、行事関係

- 観桜会 4月 7日 63家族
- 納涼祭 8月11日 85家族
玉沢子供会
- 運動会 10月20日 54家族
- バイキング

7月パンケーキバイキング（パンケーキ・チョコレートアイス他） 79名

ペースト者：カスタードプリン

トッピング：メロン・ミックスベリー・生クリーム

9月敬老バイキング フランス料理風 86名

前菜：サーモンマリネ スープ：かぼちゃと豆乳のポタージュ

メイン：サーロインステーキと彩野菜のグリル

パン：チョコレートニッシュ・オレンジデニッシュ

デザート：レチズケーキ・抹茶ケーキ・チョコブラウニー

飲み物：ワイン・コーヒー・紅茶・お茶

12月居酒屋バイキング（豚の角煮・アジフライ・稲荷ずし） 77名

静岡おでん（大根・たまご・さつま揚げ・黒はんぺん）

飲み物：ビール・赤ワイン・日本酒・ジュース・サイダー

3月海鮮丼バイキング（マグロ・鱈・サーモン・エビ・ネギトコ他） 74名

漬物：山葵の甘酢漬け・べったら漬け・奈良漬け・千枚漬け・昆布の佃煮

小皿：スクランブルエッグ

デザート：抹茶パウンド

8、ボランティア関係 本年も多くのボランティアの方々にご協力いただきました。

星園幼稚園 様	(園児慰問)
星園幼稚園父兄会 様	(コーナ慰問)
JA三島函南農協婦人部 様	(シーツ交換・各種行事手伝)
JA三島函南農協 様	(パンジーの苗寄贈)
レインボーハート 様	(車椅子ダンス・運動会手伝)
不二聖心三島地区会 様	(各種行事手伝・里周辺草刈り)
イトーヨーカドー出張販売 様	(年2回出張販売)
リトミック黒石 様	(歌と対談ボランティア)
ローソン出張店舗	(毎月2回)
淡交会 様	(お茶会)
小池敦子理事社中 様	(観桜会のお茶会)
伊奈淑子 様	(玄関の生け花)
北京亭(行藤 勲) 様	(花と農作物の寄贈)
櫻の会(家族会)	(園舎周り清掃・花壇整備2回延べ74名)
近藤幸久 様	(紫陽花苗67鉢)

9、実習受入

知徳高校介護実習	33日	延99名
順天堂看護大学実習生	6回	実人数39名

10、福祉避難所

4階サンルームをあて5名収容想定。

段ボールマジックベットの畳間仕切りセット整備(三島市防災資機材補助)

◇借入金状況

平成31年3月31日現在

区 分	借入額	当期償還額	期末残高	支払利息	摘 要
福祉医療機構	31,500,000	5,250,000	5,250,000	199,500	玉澤の里建設分
福祉医療機構	300,000,000	11,076,000	255,671,000	3,009,205	玉澍園建設分
合 計	331,500,000	16,326,000	260,921,000	3,208,705	

※期末残高は1年以内返済予定額を含む。

平成30年度事故内容

平成30年度ユニット型特養事故発生状況

骨折	3	打撲	7	皮下出血	13	表皮剥離	5	裂傷	3	受傷なし	5
介護度別	要介護5 1 要介護4 1 要介護2 1	介護度別	要介護5 1 要介護4 3 要介護3 2 要介護2 1 要介護1 1	介護度別	要介護5 6 要介護4 5 要介護3 1 要介護1 1	介護度別	要介護5 1 要介護4 3 要介護2 1	介護度別	要介護5 1 要介護4 1 要介護3 1	介護度別	要介護4 1 要介護3 2 要介護2 1 要介護1 1
部位別	大腿部 1 上腕部 1 足関節 1	部位別	後頭部 3 顔・顔面 3 背部 1	原因別	不注意 7 男性把握不足 1 不明 4	部位別	下腿部 2 前腕部 2 手 1	部位別	後頭部 2 足部 1		

ユニット別	さくら 6 さざんか 3 さつき 6 つつじ 11 ふじ 5 もみじ 6	皮下出血 5 皮下出血 1 骨折 1 打撲 3 擦過傷 1 骨折 2	表皮剥離 1 裂傷 2 打撲 2 皮下出血 3 皮下出血 1 打撲 2		皮下出血 1 表皮剥離 1 転倒 1 表皮剥離 3 皮下出血 2	表皮剥離 1 転倒 1	受傷なし 1 誤薬 1	ずれ落ち 1	裂傷 1
-------	---	---	--	--	--	----------------	----------------	--------	------

行政報告	7	もみじ	4	さざんか	1	さつき	1	つつじ	1
看護師処置	6	ふじ	3	さざんか	1	さくら	1	つつじ	1

傾向分析

- ※ 大きな事故は3階のユニットに集中している。
- ※ 事故「発生」に限定すると19:00~23:30(特に20時台)に多発している。
- ※ 多発生職員はばらつきがあるが、傾向として就業4か月目の職員に顕著な傾向がある。
- ※ 事故「発生」に限定すると要介護3が4件、要介護4が6件、要介護5が5件と重度者に多い
このことは介護の丁寧さに欠けることが考えられる。

平成30年度地域密着型特養事故発生状況

打撲	2	皮下出血	5	表皮剥離	3	裂傷	3	抜去	2	誤薬	2	ねじれ	1
介護度別	要介護5 1 要介護4 1	介護度別	要介護5 1 要介護4 2 要介護2 2	介護度別	要介護5 1 要介護4 2	介護度別	要介護4 2 要介護3 1	介護度別	要介護5 2	介護度別	要介護4 1 要介護2 1	介護度別	要介護5 1
部位別	手部 1 前額部 1	部位別	顔面 1 足部 1 手部 2 前頭部 1	部位別	手部 1 肘部 1 上腕部 1	部位別	前腕部 1 側頭部 1 前頭部 1						

行政報告	6	要介護5	2	要介護4	3	要介護3	3
看護師処置	3	要介護5	2	要介護4	1		

傾向分析

- ※ 皮下出血及び表皮剥離の件数が重度者に著名であるが、地域の構成が要介護4ないし5の方が大半である
- ※ 行政報告・看護師処置の対象者も重度者に偏っている介護の質が問われる。
- ※ 事故「発生」に限定すると6時から9時後半に多発していて、起床介助時とF勤出勤時と重なり、原因は不注意が多い。

平成30年度短期入所生活介護事業事故発生状況

皮下出血	3	裂傷	3	誤薬	1
介護度別	要介護5 1 要介護4 1 要介護3 1 要介護2 1 要支援1 1	介護度別	要介護5 1 要介護4 1 要介護3 1 要介護2 2 要支援1 1	介護度別	要介護5 1 要介護4 1 要介護3 1 要介護2 1 要支援1 1
原因	不明 転倒 ずれ落ち	原因	転倒 1 接触 2	原因	セットミス 1

苦情対応として上記対策を実施するとともにご家族に対しアンケートを実施しました。

アンケート内容は以下の通りです。

- ① 玉澗園への要望（ご要望内容によりすべてに対応できないことをご了承ください）
- ② 玉澗園へのご意見・苦情（匿名を原則としておりますが回答を要する場合や個別の苦情等につきましては誠実に対応させていただきますのでお名前等をお知らせください）
- ③ 現在の玉澗園の評価（選択肢を選択、3、4、5を選ばれた場合はその理由お書きいただけると助かります。）
1・良いです。2・概ね良いです。3・もう少し頑張り。4・頑張り。5・改善

アンケート結果（当内容は全ご家族に報告しています。）

I 意見・苦情関係の内容

（1）生活環境 10件

- | | |
|---------------|----|
| ①居室の汚れ等に関するもの | 2件 |
| ②スタッフに関するもの | 4件 |
| ③入園者の衣類に関するもの | 2件 |
| ④臭いに関するもの | 2件 |

（2）職員間の連携 4件

（3）施設の体制 5件

- | | |
|----------------|----|
| ①人材の育成 | 1件 |
| ②リハビリ・余暇に関するもの | 1件 |
| ③職員表示に関するもの | 2件 |
| ④面会時間に関するもの | 1件 |

II 要望関係の内容

スタッフの増員・インフルエンザ時の面会・預り金通帳の参照機会・病院等の受診頻度等16件のご要望をいただきました。

ご意見・苦情と重複するものは、「ご意見・苦情」に数えさせていただきました。

ご要望に応えるよう努力してまいります。

III 評価

「良いです」37% 「概ね良いです」22% 「少し頑張り」3% 「頑張り」0%
「改善」0%

平成 30 年度入園者状況報告

(平成31年3月31日現在)

ユニット型保険機関及び被保険者数(単位:人)

保険機関名 (保険者名)	被保険者数	保険機関名 (保険者名)	被保険者数
三島市	42	伊豆の国市	2
牧之原市	1	函南町	7
沼津市	1	長泉町	1
清水町	1		
葛飾区	1	合計	56

地域密着型保険機関及び被保険者数(単位:人)

保険機関名 (保険者名)	被保険者数
三島市	18
合計	18

ユニット型入園者年齢別構成(単位:人)

年齢別	男性	女性	合計	年齢別	男性	女性	合計
70歳未満	0	2	2	90歳以上95歳未満	1	14	15
70歳以上75歳未満	2	0	2	95歳以上100歳未満	0	5	5
75歳以上80歳未満	3	8	11	100歳以上	0	6	6
80歳以上85歳未満	1	5	6	合計	8	48	56
85歳以上90歳未満	1	8	15	平均年齢	80.6	88.6	87.5

最年少者 64歳 (男性:72歳 女性:64歳)
 最年長者 105歳 (男性:93歳 女性:105歳)

地域密着型入園者年齢別構成(単位:人)

年齢別	男性	女性	合計	年齢別	男性	女性	合計
65歳以上70歳未満	0	2	2	90歳以上95歳未満	2	1	3
70歳以上75歳未満	0	1	1	95歳以上100歳未満	0	7	7
75歳以上80歳未満	0	1	1	100歳以上	0	0	0
80歳以上85歳未満	0	0	0	合計	2	16	18
85歳以上90歳未満	0	4	4	平均年齢	85.4	89.6	88.9

最年少者 69歳 (男性:69歳 女性:69歳)
 最年長者 98歳 (男性:93歳 女性:98歳)

ユニット型介護度別構成(単位:人)

	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男	0	2	3	2	1	8
女	5	7	10	15	11	48
計	5	9	13	17	12	56

地域密着型介護度別構成(単位:人)

	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男	0	0	1	1	1	3
女	1	3	2	5	4	15
計	1	3	3	6	5	18

ユニット型段階別構成(単位:人)

	1段階	2段階	3段階	4段階	合計
男	0	1	3	4	8
女	0	9	23	16	48
計	0	10	26	20	56

地域密着型段階別構成(単位:人)

	1段階	2段階	3段階	4段階	合計
男	0	0	1	2	3
女	1	3	5	6	15
計	1	3	6	8	18

ユニット型身元引受人状況(単位:人)

続柄 人数	配偶者	子	孫	兄弟姉妹	甥・姪	成年後見	その他		合計
							嫁	他	
	4	40	0	6	3	2	3	0	58

地域密着型身元引受人状況(単位:人)

続柄 人数	配偶者	子	孫	兄弟姉妹	甥・姪	成年後見	その他		合計
							嫁	他	
	2	12	0	1	2	0	1	0	18

ユニット型入園前の居所別構成(単位:人)

居所別	在宅	他の老人福祉施設	他の社会福祉施設	医療機関	老人保健施設	その他	合計
人数	43	0	1	9	5	0	58

地域密着型入園前の居所別構成(単位:人)

居所別	在宅	他の老人福祉施設	他の社会福祉施設	医療機関	老人保健施設	その他	合計
人数	6	2	0	3	7	0	18

ユニット型在園者の介護の状況(単位:人)

項目	自力	一部介助	全介助	合計
入浴	6	31	21	58
衣類の着脱	15	20	23	58
排泄	16	16	26	58
食事	42	4	12	58
屋内での移動	19	14	25	58
体位交換	38	1	19	58

車椅子使用者数 37名
 オムツ使用者数 33名 (昼夜: 15名 夜間のみ: 18名)

地域密着型在園者の介護の状況(単位:人)

項目	自力	一部介助	全介助	合計
入浴	0	6	12	18
衣類の着脱	0	6	12	18
排泄	1	5	12	18
食事	5	7	6	18
屋内での移動	2	4	12	18
体位交換	5	0	13	18

※前年度と比較して体位交換で全介助が増え、他はほぼ同様
 車椅子使用者数 15名
 オムツ使用者数 13名 (昼夜: 11名 夜間のみ: 2名)
 ※前年度対比ではオムツ使用者数は増えている。

ユニット型入園者健康保険加入状況(単位:人)

保険種別	国保	後期高齢者	共済	生保	合計
人数	6	52	0	0	58

地域密着型入園者健康保険加入状況(単位:人)

保険種別	国保	後期高齢者	共済	生保	合計
人数	2	15	0	1	18

ユニット型面会状況(単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	19	16	20	20	21	17	18	18	18	22	31	29
1回	15	11	15	13	8	13	6	11	7	17	12	15
2回	9	10	5	6	11	10	14	8	11	6	7	9
3回	1	7	2	6	2	3	3	3	4	3	3	3
4回	3	2	4	2	5	4	2	3	4	5	5	3
5回以上	8	9	11	11	11	13	16	16	14	5	3	2
延べ回数	113	134	123	157	141	181	164	172	162	96	73	67

※ 年間延べ面会回数 1,583回 前年度比30%減(一人に対する面会数が減った)
 1人平均 年間 :24回 月平均:2.0回

※ 平成30年度中に面会者の全くなかった方 6名
 注:行事等での面会は除く

地域密着型面会状況(単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	14	4	6	5	9	6	8	7	9	8	12	10
1回	3	9	8	8	5	6	6	6	5	3	3	2
2回	0	3	1	3	1	2	3	3	1	1	0	1
3回	3	0	2	1	2	3	0	3	1	3	0	2
4回	0	2	0	1	1	0	2	0	0	0	4	0
5回以上	0	1	2	1	1	1	0	0	3	1	0	3
延べ回数	12	29	28	26	23	28	20	21	27	19	19	29

※ 年間延べ面会回数 281回 前年度比 51%減
 1人平均 年間 :11回 月平均:0.9回

※ 平成30年度中に面会者の全くなかった方 2名
 注:行事等での面会は除く

ユニット型入園者外出・外泊回数(単位:人)

外出回数	男性	女性	合計	外泊回数	男性	女性	合計
1回	3	10	13	1回	1	2	3
2回	1	5	6	2回	0	2	2
3回	0	3	3	3回	0	0	0
4回以上	1	11	12	4回以上	0	1	1
合計	5	29	34	合計	1	5	6

地域密着型入園者外出・外泊回数(単位:人)

外出回数	男性	女性	合計	外泊回数	男性	女性	合計
1回	1	0	1	1回	0	1	1
2回	0	0	0	2回	0	0	0
3回	0	0	0	3回	0	0	0
4回以上	0	0	0	4回以上	0	0	0
合計	1	0	1	合計	0	1	1

ユニット型入園者預り金状況

	人 数	金 額
年金等施設管理	12	13,783,230円
年金等家族管理	44	15,266,706円
合 計	56	29,049,936円

- ※ 遺留金品等預り金返還について(死亡者数 11名 契約解除者数 3名)
 遺留金品を有した人数及び引き渡額 11名 ¥ 5,819,754円
 契約解除に伴う預り金返還総額 3名 ¥ 859,742円

地域密着型入園者預り金状況

	人 数	金 額
年金等施設管理	3	1,643,944円
年金等家族管理	15	3,034,352円
合 計	18	4,678,296円

- ※ 遺留金品等預り金返還について(死亡者数 3名 契約解除者数 1名)
 遺留金品を有した人数及び引き渡額 3名 ¥ 1,202,763円
 契約解除に伴う預り金返還総額 1名 ¥ 0円

看取り実施者

ユニット型入園者	5名
地域密着型入園者	2名
合 計	7名

ユニット型入園・退園状況(単位:人)

月	入園者	退園者	入園前の状況				退園の理由		
			老健	病院	施設	在宅	死亡	契約解除	在宅復帰
4月	0	3	0	0	0	0	2	1	0
5月	3	0	0	1	0	2	0	0	0
6月	2	2	1	0	0	1	1	1	0
7月	2	1	0	0	1	1	1	0	0
8月	1	0	1	0	0	0	0	0	0
9月	0	1	0	0	0	0	1	0	0
10月	2	1	0	0	0	2	0	1	0
11月	0	2	0	0	0	0	1	1	0
12月	0	1	0	0	0	0	1	0	0
1月	1	0	0	0	0	1	0	0	0
2月	1	1	1	0	0	0	1	0	0
3月	0	2	0	0	0	0	2	0	0
合計	12	14	3	1	1	7	10	4	0

地域密着型入園・退園状況(単位:人)

月	入園者	退園者	入園前の状況				退園の理由		
			老健	病院	施設	在宅	死亡	契約解除	在宅復帰
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	2	0	1	0	0	1	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	1	0	0	0	0	1	0	0
10月	0	2	0	0	0	0	1	1	0
11月	1	0	0	0	0	1	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	1	0	0	0	0	1	0	0
2月	1	0	0	0	0	1	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	4	1	0	0	3	3	1	0

平成 30 年度 ユニット型入園者の疾病の状況（単位：人）

疾病名	脳血管障害	高血圧症	心疾患	呼吸器疾患	糖尿病	消化器疾患	精神疾患	皮膚疾患	眼疾患	パーキンソン病	その他
男	6	4	2	1	1	2	1	7	2	1	7
女	12	30	11	4	6	4	4	37	16	3	48
計	18	34	13	5	7	6	5	44	18	4	55

平成 30 年度 地域密着型入園者の疾病の状況（単位：人）

疾病名	脳血管障害	高血圧症	心疾患	呼吸器疾患	糖尿病	消化器疾患	精神疾患	皮膚疾患	眼疾患	パーキンソン病	その他
男	2	1	0	0	0	1	0	2	0	0	3
女	3	10	6	4	5	5	2	12	5	0	15
計	5	11	6	4	5	6	2	14	5	0	18

平成 30 年度 ユニット型入園者の通院の状況（単位：人）

		内科	外科	眼科	歯科	整形外科	脳外科	皮膚科	循環器科	婦人科	泌尿器科	精神科	消化器科	呼吸器科	耳鼻科	合計
通院	男	1	2	0	4	3	2	0	3	/	0	6	4	0	0	25
	女	18	13	0	9	37	7	20	7	3	1	16	1	5	1	138
内服受診	男	90	0	0	0	1	0	0	1	/	0	0	4	0	0	96
	女	650	0	12	0	5	0	5	6	1	1	13	0	0	0	693
訪問診	男	134	0	16	0	0	0	0	0	/	0	1	0	0	0	151
	女	838	0	119	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	977

平成 30 年度 地域密着型入園者の通院の状況 (単位:人)

		内科	外科	眼科	歯科	整形外科	脳外科	皮膚科	循環器科	婦人科	泌尿器科	精神科	消化器科	呼吸器科	耳鼻科	合計
通院	男	0	2	0	0	2	1	4	0	/	0	5	0	2	0	16
	女	4	7	1	0	1	0	9	6	0	2	0	0	3	1	34
内服受診	男	50	0	0	0	0	0	4	0	/	0	7	0	0	0	61
	女	196	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0	1	0	203
訪問診	男	76	0	2	4	0	0	0	0	/	0	3	0	0	0	85
	女	364	0	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	378

定期検診状況 (ユニット型・地域密着型)

採血検査	年 1 回	採尿検査	年 1 回
採便検査	年 1 回	インフルエンザ予防接種	年 1 回
体重測定	月 1 回	胸部レントゲン撮影	年 1 回

平成 30 年度 ユニット型入園者入退院状況

医療機関名	入院理由	入院期間		延日数	実日数
三島総合病院	小脳出血	H.30.4.7~4.24	退所	18	16
	重度チェーンストークス呼吸	H.30.5.31~6.7	退所	8	6
	肝性脳症疑い	H.30.11.4~12.25	死亡	52	50
	脱水及び低栄養状態	H.30.11.7~11.12	退所	6	4
三島中央病院	肺炎	H.30.7.20~8.8	帰園	20	18
	胆石手術	H.30.11.26~12.6	帰園	11	9
	総胆管結石手術	H.31.1.5~1.19	帰園	15	13
三島東海病院	肺炎	H.30.9.5~10.1	退所	27	25
	肺炎・尿路感染症の疑い	H.30.11.7~11.27	帰園	11	9
順天堂病院	十二指腸狭窄・胆石胆のう炎	H.30.5.5~5.23	帰園	19	17
医療センター	誤嚥性肺炎	H.30.11.10~11.10	死亡	1	1
		合計		241	168

平成 30 年度 地域密着型入園者入退院状況

医療機関名	入院理由	入院期間		延日数	実日数
順天堂病院	電解質異常に伴う痙攣発作	H.30.5.28～6.12	帰園	16	14
三島総合病院	誤嚥性肺炎	H.30.10.8～10.29	死亡	22	20
西島病院	左小脳・左脳幹梗塞	H.30.12.8～10.25	帰園	18	16
静岡医療センター	意識消失、検査入院	H.31.3.6～3.13	帰園	8	6
		合計		64	56

ショートステイたまざわ（H30年度）

月別利用状況（単位：人）

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	合計
利用 人員	312	349	310	355	398	442	418	342	271	237	189	197	318	3820
一日 平均	10.4	11.2	10.3	11.4	12.8	14.7	13.4	11.4	8.7	7.6	6.7	6.3	10.2	
一日 平均 宿泊	8.8	9.4	8.8	9.7	11.0	12.9	11.9	9.9	7.6	6.4	5.6	5.5	9.0	

介護度別実績

	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
実利用 者 人	15	44	111	87	53	20	330
比 率 (%)	4.5	13.3	33.8	26.3	16.1	6.0	100.0

	1段階	2段階	3段階	4段階	合計
実利用 者 人	1	32	66	231	330
比 率 (%)	0.3	9.7	20.0	70.0	100.0

	1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～25日	26～30日	31日以上
実利用 者 人	123	58	48	36	27	20	18
比 率 (%)	37.3	17.6	14.5	10.9	8.2	6.1	5.4

自立者ショート利用状況

委託者	期間	利用者数	延べ日数
0	0	0	0

今年度の自立者ショートステイの利用はありませんでした。

介護度別利用者数一覧表（単位：人）（H30年度）

	性別	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4月	男性	1	0	2	1	2	2	8
	女性	0	3	5	6	4	0	18
5月	男性	1	3	3	2	3	2	14
	女性	0	3	8	5	3	1	20
6月	男性	1	2	2	3	2	1	11
	女性	0	2	6	7	2	1	18
7月	男性	1	0	4	2	2	1	10
	女性	0	3	9	7	3	0	22
8月	男性	1	1	4	2	2	1	11
	女性	0	3	8	7	3	1	22
9月	男性	1	0	2	2	2	2	9
	女性	1	3	8	9	3	1	25
10月	男性	1	1	2	1	2	1	8
	女性	0	2	9	8	3	0	22
11月	男性	1	0	2	1	2	1	7
	女性	1	3	8	4	3	0	19
12月	男性	1	0	2	1	1	1	6
	女性	0	4	5	5	2	0	16
1月	男性	1	0	4	0	2	1	8
	女性	0	4	5	4	2	1	16
2月	男性	1	0	3	0	2	0	6
	女性	0	3	4	5	1	1	14
3月	男性	1	0	1	1	1	0	4
	女性	1	4	5	4	1	1	16
合計	男性	12	7	31	16	23	13	102
	女性	3	37	80	71	30	7	228
	合計	15	44	111	87	53	20	330

自立者ショート利用者を除く

平成 30 年度デイサービスセンターたまざわ利用状況

1. 月別利用者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	合計
一般	360	377	370	360	373	1,840
総合事業	33	52	41	45	49	220
延べ利用者人数	393	429	411	405	422	2,060
平均利用者数(人)	15.7	15.8	15.8	15.5	15.6	15.7
利用率定員(30名)	52.4%	52.9%	52.6%	51.9%	52.0%	52.4%

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般	367	358	310	339	293	303	316	2,286
総合事業	44	51	56	58	43	42	58	352
延べ利用者人数	411	409	366	397	336	345	374	2,638
平均利用者数(人)	16.4	15.1	14.0	15.8	14	14.3	14.3	14.9
利用率定員(25名)	65.7%	60.5%	56.3%	63.5%	56.0%	59.1%	57.5%	59.6%

*平成 30 年 9 月 1 日より定員 30 名から 25 名に変更する

2. 月別利用者実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般	35	35	36	36	36	35	34	29	31	30	30	31
総合事業	7	8	6	7	7	8	8	9	9	8	8	9
実人数(男)	6	6	5	5	5	7	7	7	7	9	9	9
実人数(女)	36	37	37	38	38	36	35	31	33	29	29	31
三島市	40	41	40	41	41	41	40	36	38	35	35	37
函南町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3

3. 介護度別利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	3	3	1	2	2	3	3	3	3	3	3	4	33
要支援2	4	5	5	5	5	5	5	6	6	5	5	5	61
要介護1	12	13	14	14	13	12	11	8	9	6	10	11	133
要介護2	16	16	16	15	15	15	16	15	15	16	12	10	177
要介護3	4	4	4	5	6	6	5	4	4	5	6	7	60
要介護4	3	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	3	28
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	42	43	42	43	43	43	42	38	40	38	38	40	492

4. 利用中止理由

	一般	総合事業
死亡	2	1
入所	8	0
他事業所に移行	0	0
入院中	3	1
総合事業に移行	0	0
総合事業から一般へ移行	0	1
その他	2	0
計	15	3

5. 新規利用者月別状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般	2	1	2	1	2	0	0	0	0	2	1	1	12
総合事業	2	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	7

新規・対処の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	4	2	2	2	2	1	0	1	0	2	1	2	19
退所	0	3	2	2	1	1	3	0	0	1	4	1	18

6. 年齢構成

	一般	総合事業
70～74歳	0	0
75～79歳	3	1
80～84歳	3	3
85～89歳	10	0
90～94歳	12	5
95歳以上	3	0
計	31	9

平成31年3月現在

居宅介護支援事業所 ふれ愛

月別ケアプラン新規作成依頼状況(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護予防	1	1	4	1	1	4	1	3	0	3	1	0	20
介護保険	1	6	7	2	3	7	0	3	3	4	0	1	37

ケアマネジメント月別実施状況(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延数
事業対象者	2	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	9
介護予防	12	11	15	16	17	21	22	24	23	24	25	23	233
介護保険	82	86	89	88	86	90	86	86	86	86	83	80	1028

ケアマネジメント介護度別利用者状況(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延数
事業対象者	2	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	9
要支援1	4	3	5	6	7	11	12	11	11	11	12	10	103
要支援2	8	8	10	10	10	10	10	13	12	13	13	13	130
要介護1	32	34	34	34	33	34	32	31	29	29	29	31	382
要介護2	29	29	30	31	31	35	35	35	36	37	30	24	382
要介護3	10	11	14	13	10	11	10	9	11	9	11	12	131
要介護4	8	8	8	9	10	8	8	9	8	9	10	11	106
要介護5	3	4	3	1	2	2	1	2	2	2	3	2	27

介護認定調査月別受託状況(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
三島市	9	5	5	5	5	5	3	4	7	5	8	8	69
函南町	4	5	6	3	7	3	3	3	3	2	2	1	42
川口市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
八王子市	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
葛飾区	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
秦野市	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
三鷹市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
富士宮市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	13	11	15	9	13	8	6	8	10	7	10	9	119

住宅改修理由書作成状況（単位：件）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0	0	1	1	1	2	0	2	0	1	2	0	10

住宅改修内容

	手すりの設置場所						
場所	浴室	廊下	玄関	脱衣室	階段	トイレ	外アプローチ
件数	1	2	3	2	4	2	1

平成30年度自己評価集計結果

自らのサービス内容についてどのレベルにあるかを認識し、比較衡量による自己の客観的な認識と今後の課題の洗い出しに資するため第三者評価基準に基づいて実施した。

対象は特別養護老人ホーム全職員とした。デイサービス及び居宅介護支援事業については設問内容が不相当と判断し除外した。

評価は運営管理46設問、サービス内容42設問で各設問における該当項目数（重点項目は2点、他は1点）で8点～6点はA評価・5点～4点はB評価・3点～2点はC評価・1点以下はD評価とした。

各評価点は別紙のとおり。

管理運営 A + B > C + D 32% サービス内容 A + B > C + D 64%

※直接処遇職員数が多く運営管理の%は低く出る（逆にサービス内容は高く出る）

反省点

- ① 本評価の主旨説明が十分でなく事業自体の評価と自己の行為評価と混同している者が多数見られた。
- ② 評価の配点の理解が不十分で再提出の事例が多く、評価精度に疑義が残る。

課題（管理編）

- ① 事業計画の目的や内容等の周知が不十分。周知されているとの思い込みが先行し実態がついて行っていない。一方通行でないシステム、機会、方法、対象者等を再考する必要がある。
- ② 地域や外部機関との連携が不十分。施設機能の地域への提供（福祉講演等）を模索
- ③ 運営管理において利用者へのかかわりが薄い。運営管理における情報等をどう利用者に伝えていくか？
- ④ 福祉サービスの質の向上に向けた体制整備が不十分。各職員からの発信を求める体制づくりや委員会活動の質の向上を図る。

（サービス内容）

- ① 利用者の権利侵害の防止。身体拘束廃止（スピーチロックを含む）、ICF概念の理解と実践、虐待防止褥瘡予防等研修の充実を図る。
- ② 口腔ケアの重要性が求められている。
- ③ 認知症高齢者への対応の見直し。
- ④ 更衣介助の徹底

今回は初めての実施であり実施方法にも再考を要する点や説明不足の点もあり、必ずしも当初の目的の現状レベルの把握には至っていない。が当該結果をとりあえずの起点として捉え継続して実施することによりサービスの質の向上につなげたい。

...

...

平成30年度自己評価集計表

単位(%)

A B C D

		単位(%)	A	B	C	D
運 営 管 理	1	理念・基本方針が確立・周知されている。	68	22	7	3
	2	理念や基本方針が利用者等に周知されていますか。	22	15	22	41
	3	経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	29	15	10	46
	4	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	34	20	17	29
	5	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	39	17	22	22
	6	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	15	24	12	49
	7	事業計画の利用者等への周知、理解の促し(福祉サービスの提供、施設・設備等住環境の整備)	10	17	20	53
	8	福祉サービスの質の向上に向けた体制整備がなされ、機能しているか	7	17	27	49
	9	評価結果に基づき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している	7	5	29	59
	10	職員の就業状況や意向を把握し、必要があれば改善する仕組みが構築されています。	3	2	41	54
	11	管理者は、自らの役割と責任を職員に対し表明し理解を図っている	29	32	12	27
	12	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	44	17	10	29
	13	福祉サービスの質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮している	39	22	24	15
	14	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	20	22	12	46
	15	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画を確立し、取り組みが実施されている。	24	15	17	44
	16	総合的な人事管理が行われている。	12	24	24	46
	17	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	3	12	29	56
	18	職員一人一人の育成に向けた取り組みを行っている。	5	3	12	80
	19	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	7	20	29	44
	20	職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。	12	24	27	37
	21	実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をして	5	32	29	34
	22	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	0	12	49	39
	23	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	7	12	32	49
	24	利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	7	7	27	59
	25	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	8	12	24	56
	26	各サービス業務が標準化され、マニュアル化されてサービスが提供されていますか。	7	15	2	76
	27	施設が有する機能を地域に還元している。	5	7	44	44
	28	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	3	7	24	66
	29	利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	15	53	15	17
	30	利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービスが行われている。	27	34	24	15
	31	利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	12	34	34	20
	32	福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	17	19	37	27
	33	事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	7	32	24	37
	34	利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	4	10	10	76
	35	苦情解決の仕組みが確立されており、周知・機能している。	20	36	12	32
	36	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者にも周知している。	7	5	39	49
	37	利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	10	19	32	39
	38	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	22	26	32	20
	39	感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	81	12	5	2
	40	災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的にしている。	17	47	24	12
	41	提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	15	56	12	17
	42	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立されている。	24	22	12	42
	43	アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	29	44	12	15
	44	定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しをおこなっている	15	24	39	22
	45	利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	20	51	17	12
	46	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	10	39	24	27

1

2

3

4

1	利用者の一人一人に応じた一日の過ごし方ができるよう工夫されている。	34	22	32	12
2	利用者一人一人に応じたコミュニケーションを行っている。	29	32	27	12
3	利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	10	34	27	29
4	事業所の環境について、利用者の快適性に配慮している。	15	44	44	44
5	入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	76	17	5	2
6	入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	24	51	20	5
7	排泄の支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	46	34	15	5
8	排泄の支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	61	34	5	0
9	日常生活動作にすべて手を貸すのではなく、入所者ができるだけ自分で取り組めるよう配慮している。	20	34	39	7
10	入所者の障害に合わせた、自助具や補装具などが、準備されていますか。	17	37	24	22
11	食事をおいしく食べられるよう工夫している。	56	22	17	5
12	食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	56	34	10	0
13	利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	2	44	37	17
14	褥瘡発生予防・ケアを行っている。	32	44	20	5
15	介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制を確立し、取組を行っている。	7	49	20	24
16	利用者の心身の状況に合わせた機能訓練や介護予防活動を行っている。	34	39	17	10
17	周辺症状等の観察と分析を行い、その行動への適切な対応を行っていますか。	15	39	34	12
18	認知症高齢者等に対する生活上の配慮が行われていますか。	24	41	24	10
19	抑制・拘束は行わないようにしていますか。	37	34	22	7
20	認知症高齢者に対し、夜間安眠できるように、日中出来るだけ活動的な生活を援助していますか。	5	27	34	34
21	認知症高齢者が安心して生活できるよう、環境が整備されていますか。	5	39	37	20
22	認知症高齢者に対する医学的配慮が適切に行われていますか。	7	22	46	24
23	利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順を確立し、取組を行っている。	15	66	17	2
24	施設サービス計画は、入所者の意見を取り入れて作成されていますか。	12	41	37	10
25	ケアカンファレンスを定期的に行っていますか。	2	12	39	46
26	ケアプランについての記録は適切に記入され、管理され、活用されていますか。	22	24	24	29
27	利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立し、取組を行っている。	24	61	5	10
28	職員間の情報交換や伝達はスムーズにできるような体制になっていますか。	24	37	27	12
29	入所者の睡眠・食事・排泄状況等の把握をしていますか。	49	37	12	2
30	入所者に対する服薬管理が適切に行われていますか。	0	44	56	0
31	入所者及び家族に健康状態をわかりやすく説明していますか。	39	51	10	0
32	家族関係についての相談に応じ、適切な調整を行っていますか。	5	24	24	37
33	入所者や家族からの経済的・社会的な相談に応じていますか。	22	20	22	37
34	入所者の判断能力が低下した場合、任意後見人や法定後見人などの連携をとる体制にありますか。	2	39	12	46
35	寝たきり防止が徹底され、少なくとも寝・食分離が行われていますか。	24	46	27	2
36	1日の総臥床時間を減少する努力が行われていますか。	10	44	39	7
37	日中は、寝間着から日常着に着替えるようにしていますか。	2	24	41	32
38	日常生活動作にすべて手を貸すのではなく、入所者ができるだけ自分で取り組めるよう配慮していますか。	12	32	39	17
39	入所者への言葉遣いに特に注意し、そのための検討が行われていますか。	2	27	61	10
40	日常会話が不足している入所者に対して、言葉がけと相手の話に耳を傾けるように配慮していますか。	7	17	46	29
41	レクリエーション等のプログラムは、入所者が積極的に参加しやすいように計画され、実施されていますか。	2	17	41	39
42	各種行事に家族やボランティア、地域住民も参加できるように配慮していますか。	29	34	32	5

サ
ー
ビ
ス
内
容

